



# kawasaki central park project

k99053 塩澤 毅

## Problem

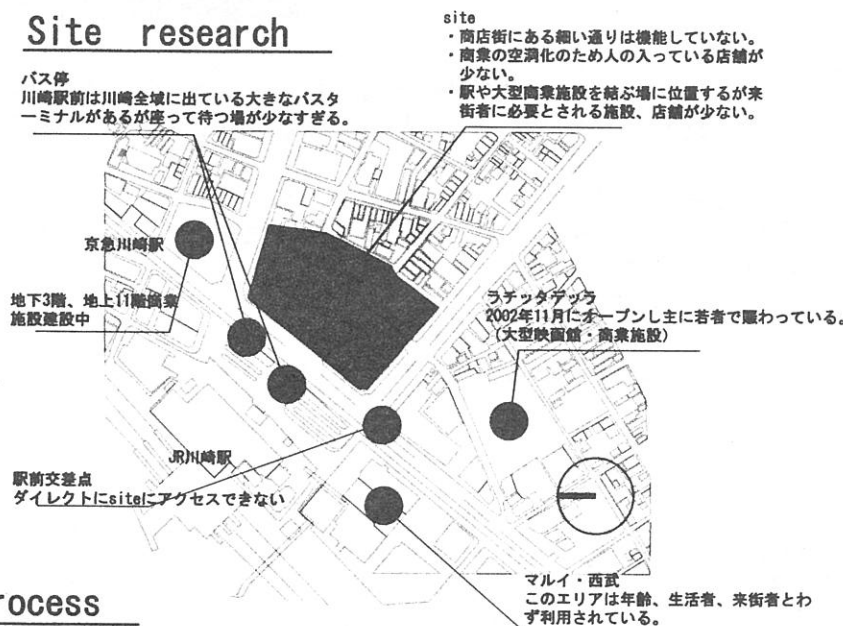
川崎市は京浜工業地帯の中心的な都市であり、重工業を主体として戦後の日本経済発展の原動力となってきた。しかしながら、東京都と横浜市にはまれ、今一つ存在感に乏しい印象があり、また川崎市の象徴であった重工業地帯も川崎市のイメージを損なっている。川崎区は川崎市の中でも特に緑が少なく、川崎市の顔でもあるJR川崎駅周辺は生活者、来街者が気軽に立ち寄り安らぎを感じられる公園のような存在がない。川崎に映画を楽しむに訪れた人々は待ち時間落ち着いてのんびりできる場がなく、ショッピングをしに訪れた人々は疲れた体を休める場もない。よって川崎を訪れても人々の滞在時間は短くなってしまふ。さらには川崎の生活者でさえも東京、横浜などに出て行ってしまふ。川崎駅周辺には緑や人々が自由に使えるスペースというものの配慮が乏しく計画が必要である。

川崎市の中心市街地である川崎駅周辺地区は、商業をはじめとした市民のニーズを満足させる各種機能が集積、充実した地区である。しかし、近年、地域間競争の激化や郊外型大型商業施設の出店等の影響により、川崎区では商業機能の空洞化など都心機能の低下が懸念され始めている。市民生活の拠り所となっている川崎区の機能低下は、即ち川崎市にとって、また市民にとって大きな損失につながる。そこで中心市街地である川崎駅周辺地区のあり方を考える。

## Concept

川崎市の中心市街地は、官公庁施設をはじめ、小売業、サービス業などの各種業務施設が集積するビジネス街であると同時に、その周辺部には一般住宅が広がり、「職住近接の街」を形成しているところに大きな特徴がある。こうした特徴を活かして都心居住を背景とした最寄りの空間と、商業施設や映画等の文化・娯楽施設などが醸し出す非日常的な都市空間を密着させることによって、他地域はない多様な街の賑わいと独特な活気を創出していく。この日常と非日常の街づくりに向けた基本方針としては、一つには一層「便利さ」と「快適さ」を提供できる計画をする。二つには、商業の強化はもとより、映画等に代表される街の特色を活かして他地域との差別化を図り、広域から多様な来街者を惹きつけるオリジナリティを持った計画をする。

## Site research



## Program process

・現在siteは商業的にも空間的にも単調であり、現在の状況では都市空間としての魅力がなく、通過点（特に来街者）としてしか機能していないことが多い。駅前という良い立地条件にもかかわらず来街者が必要とする施設がなかったり、生活者も目的以外でのウィンドウショッピング的なものを誘発させる機能、施設がなく人々は短時間の滞在で通り抜けてしまふ。

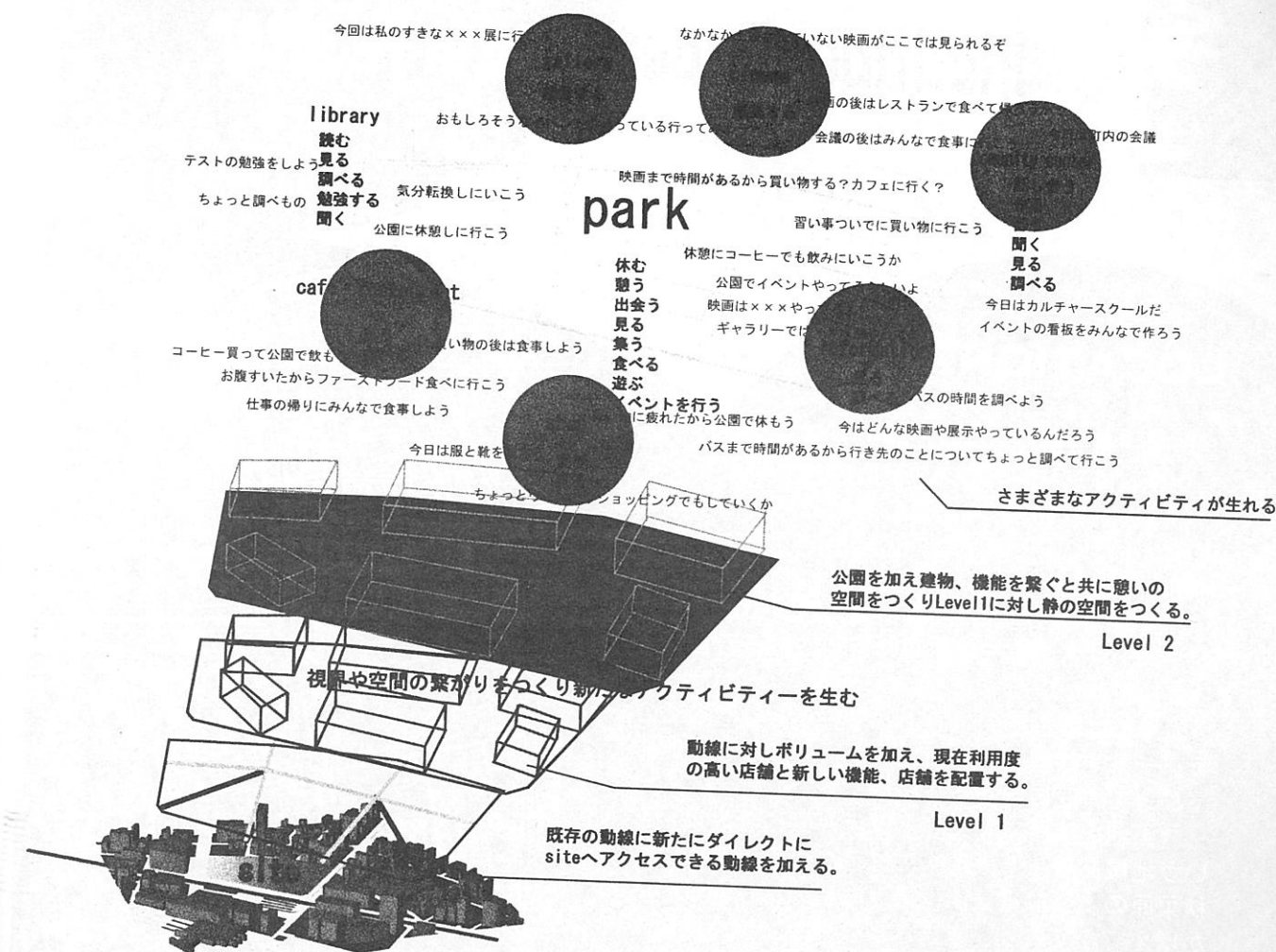
・新しいコミュニケーションが街に形成される。  
・人々は通り抜ける際に興味を湧いて立ち止まったり、siteを利用したいという気持ちを誘発させる。  
・イベント開催などでsiteに出かけたくなる。

・新しい機能を追加することにより駅とその周辺を繋ぎながら新たな街のアクティビティを生み出す場に転換する。

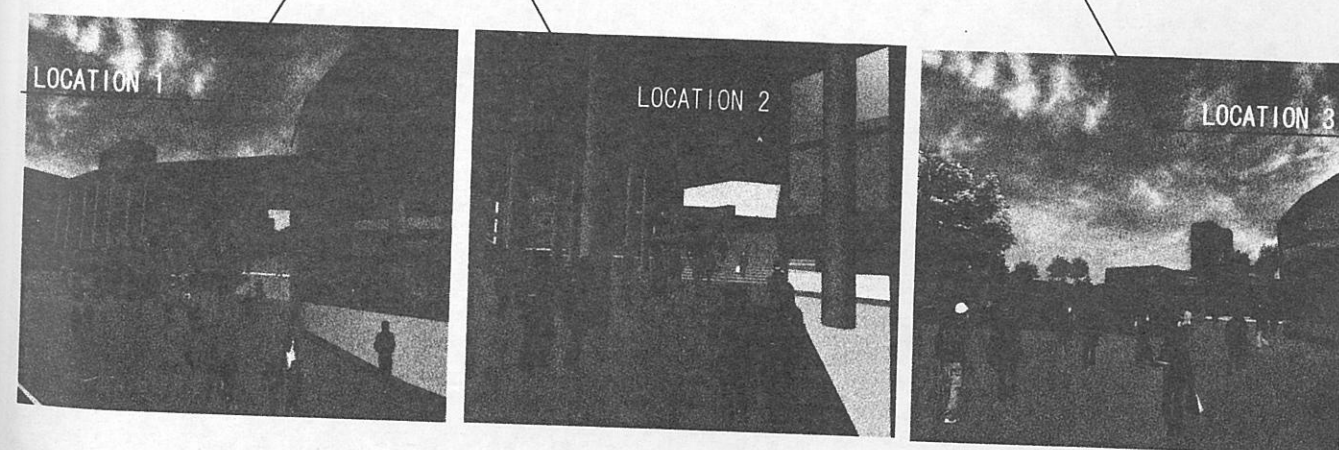
### Siteに求められる機能

- ・多様な活動・・・活動のバリエーションを増やすことにより生活者、来街者、年齢問わず利用目的を与える短期的でフレキシブルなプログラムを導入し建物内の性質を変化させ続ける。
- ・行動の自由・・・行動の自由化によって通り過ぎるだけではなくアクティビティの場に転換する。
- ・緑・・・公園などのイメージをやわらげると共に安らぎの空間を作る。
- ・公園の機能・・・気軽に立ち寄り体を休ませたり、コミュニケーションをとったりなど多目的な空間をつくる。川崎区は高齢者が多いので、川崎駅前にくり出し散策を楽しむには気軽に腰掛けられたり、休憩する空間をつくる。

## Building process



## Northwest elevation



指導教員名 伊藤 洋子 教授